

# つながり

「つながり」は、医療や介護に従事する皆様が、多職種に向けて自らの情報を発信し、互いに理解を深め、顔の見える関係を築くための連携ツールとして、季節の節目ごとの発行を予定しております。皆様からのご意見やご要望、ご提案など、是非、本センターまでお寄せください。お待ちしております。

## 在宅医療・介護に携わる関係者9人が医師会館に集合！ 座談会『医師と本音で話し合おう』を開催しました



長谷山俊之氏  
医師 (医)  
長谷山内科医院

菊地富貴子氏  
訪問看護師 (看)  
訪問看護ステーション  
あきた

朝倉奈緒子氏  
訪問看護師 (看)  
秋田市医師会訪問看護  
ステーション

長谷川淑子氏  
包括職員 (包)  
八橋地域包括支援  
センター社協

鈴木恭子氏  
介護支援専門員 (介)  
南寿園居宅介護支援  
センター

岩間雄一氏  
薬剤師 (薬)  
アルヴェいわま薬局

熊谷肇氏  
医師 (医)  
熊谷内科医院

小川卓也氏  
施設職員 (施)  
特別養護老人ホーム  
やすらぎホームけやき

三浦秀己氏  
介護支援専門員 (介)  
光峰苑居宅介護支援センター

※撮影のためにマスクを外して頂きました。実際の意見交換はマスク着用で行っております。

「多職種からの率直な意見が聞きたい」という医師の考えから出発し、関係者同士が自由に発言できる場として、座談会「医師と本音で話し合おう」の企画が生まれました。

10月30日(金)、在宅医療・介護に携わる医師2人の他、5職種(薬剤師、訪問看護師、介護支援専門員、施設職員、包括職員)7人が医師会館に集合し「かかりつけ医との連携において課題に感じていること」というテーマで意見交換をしています。日常の連携についてだけではなく、幅広い内容の話題で盛り上がりました。

今回のつながりvol.8では、その一部をご紹介します。

### 私たち、連絡方法に困っています！

**長谷山氏(医)** 日頃から医師とのやり取りに壁を感じるという声をたくさん頂いております。これは何とか改善しなければという思いから、この度の座談会を企画しました。普段感じている事をこの場で出してもらい、今後の改善の糸口が見つければと考えています。今日はどうぞよろしくお願い致します。この後の進行は、ケアマネジャーの三浦さんをお願いします。

**三浦氏(介)** 私は普段ケアマネ業務をする中で、医師に初めて声をかける時など多少壁を感じる事があります。皆さんはいかがでしょう。

**長谷川氏(包)** 患者さんのことで医師に相談したいとき、相談方法に悩みます。電話、FAX、メールなど、手段を決めてもらう事はできるのでしょうか。

**鈴木氏(介)** FAXで情報提供した後受付に電話をしています。忙しいという理由で医師が見たかどうかの確認ができない事もあり、やはり相談方法に困っています。

**長谷山氏(医)** 私はよくFAXでやり取りしていますが、文中に返事の要否や

欲しい指示の項目などが明記してあると、動きやすいですね。是非ご協力頂きたいところです。

**菊地氏(看)** 急ぎの場合は電話でも良いですか。私たちは訪問先から医師に相談の電話をすることがあります。

**長谷山氏(医)** 基本的に外来時間中の電話対応は難しいですが、訪問看護師などからの急ぎの電話には、診療所看護師が先に対応し、私に回ってきます。他の医療機関は違いますか？

**菊地氏(看)** 看護師に間に入ってもらえると伝えやすいですが、これは医療機関によってまちまちですね。

**熊谷氏(医)** 連携の手段を、流行りのICT利用でも文書でも決めて欲しいという話はよくあります。しかしその前に、顔が見える関係は築けているのでしょうか。顔を合わせないで済ませるための連携手段では本末転倒です。医師の側にも問題があるかもしれませんが、コミュニケーションが取りづらい怖い医師なんて、今どきいないでしょう？

**三浦氏(介)** たまにいらっやいますよ～。

**長谷山氏(医)** 多職種からの情報は患者さんのためになると医師も理解してい

ます。おっかないと言わず積極的に声をかけてください。

**熊谷氏(医)** もし怖くて相談できないなんて事があれば、まずは連携センターに相談してみてください。

### 制度の理解と制度の壁

**朝倉氏(看)** 私達が訪問するためには訪問看護指示書が必要ですが、医師からその理解が得られず、何度も説明する事があります。必要であることを是非ご理解頂きたいです。

**熊谷氏(医)** はい、すみません！毎年主治医意見書の書き方講習会があるので、訪問看護指示書の書き方も入れた方が良さそうですね。

**三浦氏(介)** 岩間さん、小川さんから課題と感じていることを教えてください。

**岩間氏(薬)** 普段のやり取りで大きな問題は感じていませんが、医師から施設に訪問しての薬剤管理を依頼される事があります。制度上対応できる施設に限られていて、例えばショートステイは自宅や他の施設と同じように対応する事は難しい。説明してもなかなか理解が得られず、困ることがあります。

**熊谷氏(医)** ショートステイ中の対応に大きな制限がつくのは、訪問診療の考え方と同じですね。

**岩間氏(薬)** 医師にも情報として持っておいでもらいたいです。

**熊谷氏(医)** 私もケアマネさんにショートステイ先への訪問診療を頼まれることがあります。制度上思うようには行きません。医療職も介護職も、制度への理解不足は私も感じているところ

です。  
**小川氏(施)** 今回この座談会に来る前に数カ所のショートステイから聞き取りをしましたが、共通する課題が、受診についてでした。本来ショートステイ中の方は外来通院をするべきですが、体力的に通院が難しい場合などは医師に来てもらいたい、という声を相当数拾いました。薬剤管理についてもできるなら薬剤師にお願いしたいところですが、岩間さんのお話では薬剤師はショートステイ先への訪問が難しいと

**岩間氏(薬)** 制度上の縛りがありますね。

**小川氏(施)** あと、中にはショートステイ中に最期を迎えられる方もいらっしゃいますが、いざという時にかけつけ医は施設に来てくれるか、心配の声も上がっています。

**熊谷氏(医)** ショートステイ中の医療については私たちも課題を感じていますが、制度上自宅と同様にはできません。けれどもこの先ずっと宙に浮かせておく訳にはいかないでしょうね。特に秋田市では、ショートステイを利用している患者さんはたくさんいらっしゃいますし。

**長谷山氏(医)** 今このメンバーで話し合っても解決の糸口を見つけるのは難しい課題ですね。

**熊谷氏(医)** 今すぐ制度を変えることは難しいかも知れませんが、まずは制度

や仕組みを知るために、関係者みんなで勉強していかなければいけませんね。

## 医師以外の力があってこそ

**長谷川(包)** ここでは是非先生に相談したいことがあります。認知症の症状がかなり進行してから相談に繋がるケースがあり、定期受診で医師に気づいてもらえれば早めに支援を開始できるのに、と思う事があるのです。難しいでしょうか。

**熊谷氏(医)** 実はすごく難しい事なのです。患者さんは外来受診中は緊張されていてしっかり受け答えができるため、逆に気づきにくいのです。それに認知症の診断を得意とする医師ばかりではありません。ご家族や地域の方からの働きかけの方が期待できるのではないのでしょうか。

**三浦氏(介)** 経験上、ご家族が気づいて相談に繋がるパターンが多いかも知れません。

**岩間氏(薬)** 私は秋田市の認知症施策検討委員会の委員になっていますが、やはり同じ課題が出ます。定期受診している医療機関の医師、看護師、その他専門職、普段関わっている地域の方など、気づいた人が早めに相談に繋がれるような仕組み作りが大切だと感じています。

**長谷川氏(包)** 地域を回ってくださっている民生委員さんから相談が入ることがあり、地域住民の力に私達も助けられています。

**熊谷氏(医)** その相談のルートに乗って包括支援センターなどから支援が入れば、事前に情報をもらう事で、専門医療機関への繋ぎなどこちらでも工夫して対応できると思います。気づくのは周囲が、専門医療機関受診のきっかけは医師が行う、このような役割分担が

スムーズなのではと考えています。私たち医師だけでは、どれだけ頑張ってもできることは限られてしまいます。これこそ地域の方、包括支援センターや多職種の方の力がなければ対応できない部分でもあります。今後ぜひご協力いただければと思います。

## 顔を見ながら話し合う

**三浦氏(介)** 連携のために工夫している事はありますか。

**朝倉氏(看)** 初回の訪問診療の場にケアマネと同行し、患者さんやご家族を含め話し合いをする事があります。早期に関係者が顔を合わせる事で、この後の連絡がスムーズになります。日常の相談や報告だけではなく、患者さんへのサポートもうまくいっている気がします。

**長谷山氏(医)** 確かに早いタイミングで顔を見ながら話し合うと、その後のやり取りは確実にスムーズになりますね。私も経験からそう感じます。

**三浦氏(介)** 話し合いは、その後の連絡のしやすさだけではなく、何よりも患者さんやご家族の安心に繋がっています。そのためにも、私達ケアマネは積極的に医師に働きかけていかなければいけませんね。話が尽きませんが、そろそろ時間になりました。

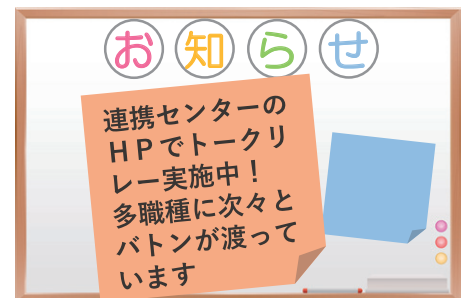
**長谷山氏(医)** まだまだ話したい事はたくさんあります。今後も今回のような機会を作っていきたいですね。

**熊谷氏(医)** 今回の座談会は、医療と介護の連携についてという広いテーマでしたが、やはり顔が見える関係を作ることが大切だと感じました。我々は医師会として、必要なことを医師に向けて発信していかなければならないと、新たな課題を感じています。今日は皆さんありがとうございました。

参加して下さった皆さん、ありがとうございました。今回の座談会は、在宅医療に携わる6職種に限定して参加者を募りましたが、実際にはもっとたくさんの方々が、在宅医療・介護の現場で活躍されています。「自分たちの職能団体でも多職種と意見交換の場を持ちたい」「自分の地域でも開催したい」などの希望がありましたら、連携センターにご相談ください！

また、今回誌面に載せられなかった他の意見や参加者の感想などを『電子版 つながり』として当センターホームページに掲載しております。是非ご覧ください。

ホームページに遊びに来て下さいね!  
<http://www.acma.or.jp/renkei/>



## 秋田市在宅医療・介護連携センター

〈受付時間〉月～金(祝祭日を除く)午前9時～午後5時

〒010-0976 秋田市八橋南一丁目8番5号(秋田市医師会館内)

TEL : 018-827-3636 FAX : 018-827-3614

E-mail renkei-center@acma.or.jp

URL <http://www.acma.or.jp/renkei/>



### 編集後記

参加者の皆さんから事前に課題の聞き取りをさせて頂きましたが、当日意見交換できたのはその中のほんの一部。そして紙面で紹介できたのは、そのまた一部です。医療・介護連携と一言で言っても、多岐にわたる課題があります。連携センターに何が出来るか...改めて考えさせられました。 熊谷

